

一次素案

ふるさと定住促進検討分科会 報告書

目次

- はじめに
- 流出要因の見解
- 重要課題
- 提案
- 要望
- 検討の記録
- 委員名簿

はじめに

日本の人口動態事象を把握することを目的に明治時代から実施されている人口動態調査において、平成 17 年から出生数が死亡数を下回る現象が続いています。これは日本が人口減少時代に入ったことを示しています。

出生数が死亡数を下回る「自然動態」においては、海津市はもちろん全国的に深刻な問題ですが、当市においては若年層の結婚・就職・就学などの理由による転出、すなわち人口流出が顕著であり、岐阜県内の「社会動態」による人口減少率では、県下でも極めて高くなっています。

自然動態と社会動態の2つの要因による人口減少は、将来の海津市の産業、経済、教育、福祉など様々な分野において影響を与えることは必至で、早急に対策を整える必要があります。

そこで、地域として“転出者”を抑制するための対策案を打ち出すことを目的とした「ふるさと定住促進検討分科会」を開催し、2 年間にわたり調査・検討を進めてまいりました。

私たちのまち海津市が、老いも若きも元気で“活力あるまち”として発展していくことを強く願い、この報告書を提出いたします。

海津市まちづくり委員会
ふるさと定住促進検討分科会
分科会長 藤田 繁己



流出要因の見解

若年層の市外流出による社会動態減少問題について、ワークショップによる要因の洗い出しを行い、以下のとおりまとめました。



1. 職場・就職環境による流出

市内で働いている就業者は、農業・製造業が多く、卸売、小売、サービスなど第3次産業は少なく、雇用につながる企業や事業所があまりないため、仕事を求め市外・県外への流出が目立っています。

若者はホワイトカラー思考であり、工場等の現場作業員には従事したがるのではないのでしょうか。また、事業所も正社員ではなく、派遣会社を使うケースもあり、在住者の雇用は高くないと考えます。

2. 住宅環境

市内全域が農業振興地域に指定されており、土地の転用ができません。そのため新規宅地の取得が困難な状況です。そのため市外から土地を求めて転入してくる人など期待できません。民間の賃貸住宅も疎らに存在していますが、居住者獲得のための競争がなく、周辺市町と比較して家賃等が割高になっており、若年世代(夫婦・ファミリー)の受入れ環境が非常に悪い状況です。

かつての住宅開発(南濃町)により人口が増加しましたが、バブル崩壊後の地価下落などで都心回帰が進みました。また、敷地および住宅が手狭なため、2世帯での生活が困難であり、住居を求め転出する者が増加していると考えられます。

家族所有の持ち家があっても親との同居を好まないため転出しているケースも多いと考えます。

3. 出産・子育て環境

当市には、小児科専門医院がありません。子育て世代の親にとって、休日や夜間の子どもの病気は、不安に感じるのではないのでしょうか。

子育て世代を支援する体制が整っていないのではないのでしょうか。(近隣市町と比較して、秀でた部分がない。)



4. 教育環境

自宅から通える範囲に大学が少なく、また高学歴志向により、親も地元滞在を勧めません。しかし、若い時に外へ出ることは、子どもの見識を高める機会でもあり、否定するものではないと考えます。

小中学生の通学について、学校まで遠く、特に冬場の下校時などは暗く、子ども・保護者は不安を感じるのではないのでしょうか。

5. 地域コミュニティ

閉鎖的、保守的な土地柄であり、市外から来る新しい住民との付き合いが難しいことがあるのではないのでしょうか。また、近所付き合い、自治会付き合いが比較的多く、古くからのしきたりやルールが若年世代に受け入れられない部分があります。

市内全般的に地域活動、地域づくりに対する機運が低いと思われます。また、行政においても、協働のまちづくりを推進していますが、特段の制度がなく、今後は積極的な対応が必要であると考えます。

6. 公共交通

養老鉄道があるものの、本数が少なく、夜間等においては通勤者にとって不便です。コミュニティバスは市内を巡回していますが利用状況は高いとは言えません。

当地域は、渋滞のない地域であるため公共交通の必要性は(若年世代にとっては)低いと考えられます。自動車を運転できる世代よりも、子どもや高齢者など、交通弱者にとって不便な環境ではないでしょうか。



重要課題

流出の要因は多種多様、かつ複数の要因が重なっており、それらすべてに対応していくことは難しいと考えられます。そこで、本分科会が対策を検討していく上での方向性を設定し、それに基づいた議論をしていくことが有意義な検討ができるであろうとの結論になりました。

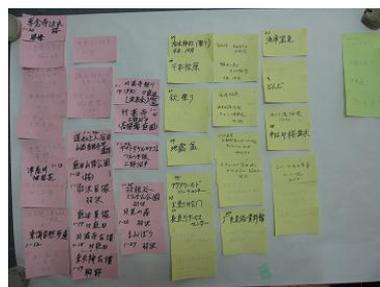
対策案を企画する中で、「市民にとって地域生活が良好である」ことと「若者にとって魅力的な支援制度がある」こと、この2点を踏まえた対策が必要との合意形成がなされ、重要課題を次のとおり設定しました。

地域コミュニティを元気にする仕掛けづくり

海津市に暮らす人々が、元気で安心して幸せな暮らしを送ることができるよう、地域コミュニティを中心としたこれからの地域づくりを活性化させる仕掛けを作り、「暮らしやすいまち」「愛着のあるまち」を実現することによって定住を促進します。

若者に的を絞った戦略的な定住対策

経済的、物理的、人的支援策を実施することにより、生活環境における海津市の負の部分(不便なところ)を補完し、また、都市部や周辺市町よりも魅力のある支援策を提示することによって、人口流出を鈍化させます。



別紙参照

提案

分科会での重要課題の設定をもとに、対策案について企画・検討し、これからの海津市の人口流出抑止対策として、以下のことを提案します。

地域コミュニティを元気にする仕掛けづくり

- ◇ ○○○○の実施
.....
- ◇ ○○○○の検討
.....
- ◇ ○○○○の推進
.....

若者に的を絞った戦略的な定住対策

- ◇ ○○○○の実施
.....
- ◇ ○○○○の検討
.....
- ◇ ○○○○の推進
.....

要望

今後、市に取り組んでいただきたい事として、下記について要望いたします。

- ◇ ○○○○の実施
.....
- ◇ ○○○○の検討
.....
- ◇ ○○○○の推進
.....

その他アイデア一覧

分科会において発表のあったアイデアを紹介します。

- ◇ ○○○○の実施
- ◇ ○○○○の実施

検討の記録

第1回分科会

日時 平成21年7月9日(木)
 場所 海津総合福祉会館ひまわり2階 研修室
 内容 海津市における人口減少の現状について



第2回分科会

日時 平成21年8月25日(火)
 場所 海津総合福祉会館ひまわり2階 研修室
 内容 グループワーク
 「人口の流出または減少の要因について」

第3回分科会

日時 平成21年9月29日(火)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 グループワーク
 「若年世代の市外流出要因について」

第4回分科会

日時 平成21年10月28日(水)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 グループワーク
 「若年世代の市外流出要因について」

第5回分科会

日時 平成21年11月27日(金)
 場所 海津総合福祉会館ひまわり1階 研修室1
 内容 流出要因と対策について

第6回分科会

日時 平成22年1月20日(水)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 ワークショップ
 「地域の誇り・魅力マップ作成」
 「誇りを育むためにすべきことは？」

第7回分科会

日時 平成22年2月25日(木)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 重要課題の絞込みについて

第8回分科会

日時 平成22年3月26日(金)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 重要課題の決定について

第9回分科会

日時 平成22年4月26日(月)
 場所 海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容 人口流出対策を分野ごとに企画①

第10回分科会

日時:平成22年5月28日(金)
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:人口流出対策を分野ごとに企画②

第11回分科会

日時:平成22年6月24日(木)
 場所: 恵那市
 内容:先進地視察研修
 →中野方まちづくり委員会 食堂部「味菜」視察
 →日本棚田百選「坂折棚田」視察
 →恵那市の定住施策について研修



第12回分科会

日時:平成22年7月16日(金)
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:人口流出対策を分野ごとに企画③

第13回分科会

日時:平成22年8月31日(火)
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:人口流出対策を分野ごとに企画④

第14回分科会

日時:平成22年9月28日(火)
 場所:海津市役所海津庁舎3階 第3会議室
 内容:

第15回分科会

日時:平成22年10月 日()
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:報告書一次素案について

第16回分科会

日時:平成22年11月 日()
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:報告書二次素案について

第17回分科会

日時:平成22年12月 日()
 場所:海津市役所海津庁舎3階 委員会室
 内容:報告書の完成

委員名簿(敬称略)

公募市民	村上碩也
公募市民	古川義弘
公募市民	本多高洲
公募市民	藤田繁己
公募市民	堀田義郎
公募市民	坂本由貴
公募市民	加々本紘一
公募市民	柴田タヨ子
公募市民	伊藤祥子
女性人材リスト登録者	安部晶子
女性人材リスト登録者	石川晴代
高須生活学校代表	加藤佳余子
海津市自治連合会代表	諏訪 薫
アドバイザー 岐阜経済大学教授	池永輝之